

■ 記事 Pick Up

- モノラボテクノフォーラム開催 2
- 新入生行事続々開催 3
- Team Regaliaの新プロジェクト 4
- iLoopが産経新聞に掲載 5
- 鳥人間コンテストに出場決定 6
- 日本経済新聞社との連携講座を開講 8

■ ひとことメッセージ

高校時代、沢登りに夢中でした。どこまで登っても更にもっと先の展開に心ときめき、どんどんひきこまれてゆきました。仕事だって、ずっとそんな気持ちで続けられたら幸せですね。

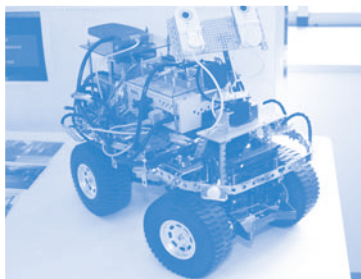
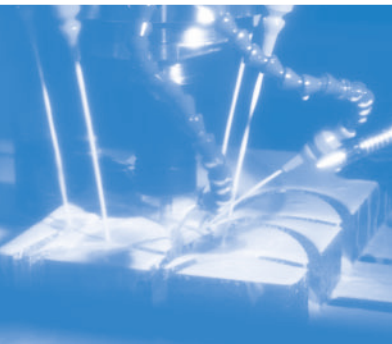
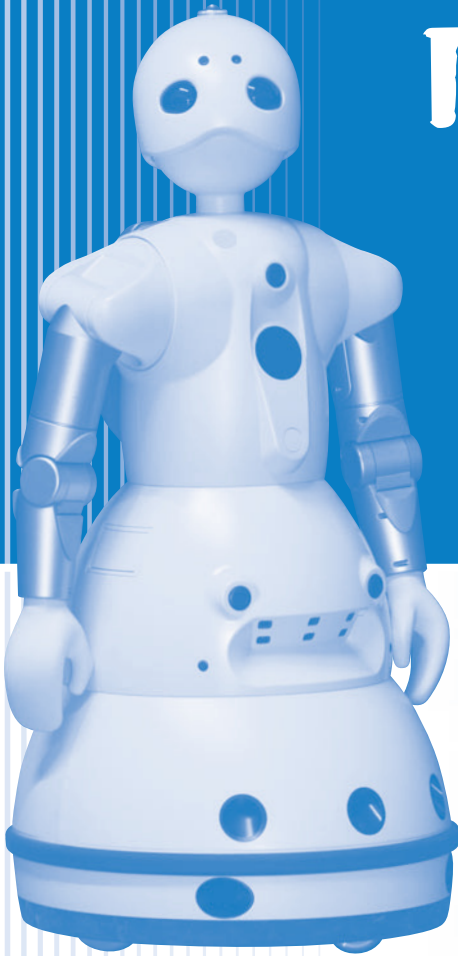


工学部 空間デザイン学科 教授
田代 純(専攻:建築設計)

題字: 第10代学長 西川 尚一先生

「造る」

造る、はぐくむ、工学実感ファクトリーをキーワードにしたMONOLAB。(モノラボ)がオープンしました。ここでは、「造る」というリアルな体験を通じて、ものづくりの楽しさを味わうことができます。ものを造るための「設計力」、「組立力」、「造形力」を磨くとともに、みなさんの人間力をつくり上げる場として大いに利用してください。



『モノラボ』が OPEN!

本学の工学実感ファクトリー「ものづくりセンター（愛称:モノラボ）」が5月24日、大学関係者の期待を背負って本格オープンした。開所式では、井上学長の挨拶に続いて、学園関係者とともに三菱重工業のコミュニケーション・ロボット「wakamaru」も参加してテープカット。来場者が同センターの最新鋭機器や学生の展示作品などを見学した。



モノラボテクノフォーラムを開催

モノラボのオープン当日大宮西学舎OITホールでは、技術・開発者の生の声を聞き、直接対話できる「モノラボテクノフォーラム」が開催され、松浪健一郎文部科学副大臣、総山哲男大阪府教育委員会教育長らが、同センターのオープンを祝って駆けつけた。祝辞にあたり松浪副大臣は、カタル国王からものづくりをする国家として栄えた日本を見本に学校を作って欲しいとの要請があることや、資源の少ない日本にとってものづくり力の重要性は計り知れず、更なる技術力の向上が大事であると熱弁。若ければ自らも学び直したいと感じたとの感想を寄せた。

生活とロボットをテーマに開催されたフォーラムには、三菱重工業（株）メカトロシステム設計課主席チーム統括の中谷達也氏をゲストスピーカーに招いた。

セッションIでは、川田工学部長からモノラボの未来や目標について説明の後、羽賀ものづくりセンター長がモノラボの施設や活動について報告、続いて寺地准教授（A科）が「MONOLAB.」のロゴについて説明した。セッションIIでは三菱重工業（株）の中谷氏が、「人と暮らすロボット技術～wakamaru開発の舞台裏～」をテーマに開発に関わる苦労話などを講演。その中で中谷氏は、人々のロボットに求める心の移り変わりによって人と



共に暮らすロボットの需要が高まっていること、現在では病院の案内係として活用されるなど、その活躍は多岐に広がりつつあることなどを語った。最後となったセッションIIIでは、学生との公開インタビューが行われ、人の顔の識別、雑音の影響などの具体的な質問が学生から次々と浴びせられたが、中谷氏はその一つひとつに丁寧に答え、会場は大いに盛り上がった。学生達や来場者の多くの関心を集め、第1回モノラボテクノフォーラムは盛況のなか幕を閉じた。

なお、モノラボテクノフォーラムは7月3日、15日にも開催されており、今後も続いて計画されている。

最後に、学生との公開インタビューでの主な質疑応答内容をご紹介します。

- Q 「wakamaru」はなぜ黄色なのですか？
A 目立つため、黄色を選びました。
- Q 人の顔はどの程度識別できるの？例えば双子などは可能ですか？
A そこまで高い精度ではないので双子は識別できません。家族間での識別など、目的にあった造りにしています。
- Q 喜びや悲しみの顔は識別できますか？
A 表情は難しいですが仕草・行動などによって、場面に合わせた判断をします。
- Q 1体にどのくらいの金額がかかっているのですか？
A 例えば6人の開発者が4年間開発に携わったとして、その開発者の一人当たりの年収が1000万円だとしたら、人件費だけでもそれだけのお金がかかっているということなので、一体にはそれ以上の金額がかかっているということになります。
- Q 言語認識にあたり雑音の影響は？また、どれくらいの単語数を認識できるのですか？
A 雑音には影響されます。単語数は50個を認識でき、覚えさせることも可能です。

夢雲（ムーン）の想いがTシャツに

昨年4月にスタートした陶芸の部屋「夢雲（ムーン）」では、モノラボ内（10号館2階）に活動場所を移したのを機にオリジナルTシャツを作成した。作陶時をはじめオープンキャンパスや城北祭などで、スタッフが着用して結束力を高めるのがねらい。ピンクと紺の2色があり、左胸に書家がデザインした「夢雲」の文字、右下にはオリジナルロゴマークが施され、背面には夢雲のコンセプトといえる「負けを溜め 勝ちを食む！」の言葉があしらわれている。制作に携わった大谷真弓准教授（P科）は「夢雲がますますものをつくる楽しみと驚き、人と人とのつながり、心を通わせる場所になってくれたら。そんな想いがこのTシャツに込められています。みなさんも一度気軽にのぞきにきてください」と呼びかけている。

夢雲では毎月1回の陶芸タイムの他に、「グループ陶芸講習会」を全8回開催する。



▲心なごむデザインが楽しい夢雲Tシャツ



◀ものづくりの奥深さを体験したグループ陶芸講習会

自然の中で仲間作り

—新入生ふれあいキャンプ(1 CAN)—

4月19日、20日の2日間、大阪府豊能郡能勢町にある大阪府立総合青少年野外活動センターで「新入生ふれあいキャンプ1 CAN-」が実施され、過去最多の総勢88人が参加した。

キャンプ1日目

▼出発

初めて会うグループの仲間に戸惑っていたが、自己紹介や名札作りをしている間に徐々に笑顔になっていき、バスの中から盛り上がった。1時間程で緑豊かな野外活動センターに到着。

▼ハートアクティビティ

友達作りのトレーニングゲーム「ハートアクティビティ」に参加。フラフープやボールを使って、ゲームを楽しみながらグループでの協力関係を築いていき、元気いっばいの笑顔が見られた。

▼アウトドアクッキング

夕刻にはグループごとにカレーライス作りに挑戦。野外の炊飯場を利用し、薪に火を点けることから始まる作業に取り組んだ。初めてカレーを作る学生も多く、不安げに包丁を持って野菜の皮むきに取り組む者や、薪にうまく火が点かず四苦八苦する場面もあったがカレー作りを楽しんでいた。完成したカレーライスはどれもおいしく出来上がり、みんなでおいしそうに平らげている様子が印象的であった。

▼キャンプファイヤー

夜の冷え込みが厳しかったため、会場をメインホールに移し暖炉の火を囲んだ。ボランティアスタッフが中心となって緊張をほぐした後、グループごとに決めた出し物を発表。クイズや二人三脚などみんなで楽しめるゲーム感覚のものもあり、炎を囲んで大いに盛り上がりコミュニケーションを深めた。



キャンプ2日目

▼2日目

昨夜大いに盛り上がった学生たちは眠そうにしながら朝の集いに参加し、池や山が見える展望台まで散策した。そこでは、みんなで作った「ヤッホッ」の声が剣尾山にこだました。朝食はベーコンと卵を各自で焼き、食パンに野菜やチーズなど好きなものを入れてグループの仲間と食べ、賑やかな食事となった。また、オリエンテーリング中に食べる昼食用のおにぎりを自分で作った。

▼オリエンテーリング

2日目のメインイベントであるオリエンテーリングに、地図、コンパス、昼食を持って出発。地図を見ながら各グループが思い思いのルートでポイントをまわった。剣尾山山頂には全員が登りきり、登頂の記念撮影を行う姿が見られた。眺望を楽しみながら、自分で作ったおにぎりとりんごの昼食を味わった。

▼キャンプ終了.....

新入生だけでなくグループリーダーとして参加した上級生もキャンプの意味を十分感じとったようで、アンケートには「普段は初対面の人は苦手だけど、すぐに打ち解けることができた!」「先輩と仲良く話せて楽しかった」「リーダーとして参加できて面白かった。チームワークを考えるよいきっかけとなった」と有意義な感想が多く寄せられた。自然いっばいの中で行われたこのキャンプで得た経験や仲間を大切に、これからの学生生活を充実したものにしていきたい。



ようこそ新入生

工学部が新入生オリエンテーションでわきあいあい♪

工学部は、大学生活のアドバイスや教員・先輩とのコミュニケーション形成のため、新入生を対象に「新入生オリエンテーション」を全ての学科で実施(4~5月)した。V・W・B科は、歴史ある奈良県吉野郡川上村を訪問した。雨の多い土地柄残念ながら天候に恵まれず「水源地の森ツアー」がやむを得ず中止となった学科もあったが、各施設の見学や体験学習を行い環境について思いを馳せた。

C科は、淡路夢舞台や明石海峡大橋を訪れ、本学OBよりそれぞれの建設エピソード等の説明を受け、貴重な経験をした。L・K科は、舞洲を舞台に合宿研修やごみ処理工場見学を実施したほか、E・D科も、地元松下の施設を訪問した。A科は、事前にレクチャーを受けた関西国際空港の建物見学等を実施するなど、教室では学べない有意義な勉強となった。一方M科は、「ブリッジコンテスト」を実施。ケント紙やコピー用紙を活用し、紙を切らずにどこまでおもりに耐えることができるかを競った。

各学科とも、特色を活かしたバラエティに富んだオリエンテーションとなった。様々な体験を通して教員や先輩、学生同士のコミュニケーションを深め、これからの大学生活にはずみをつけた新入生の今後に期待したい。



A科 ヨドコウ迎賓館で記念撮影



C科 明石海峡大橋に続く海上遊歩道

学 科	実施期間	実施場所
都市デザイン工学科 (C科)	5/31(土)	淡路島方面(兵庫県) 〔北淡震災記念公園・淡路夢舞台・橋の科学館見学等〕
環境工学科 (V科)	5/30(金)~31(土)	川上村(奈良県) 〔環境学習・林業体験等〕
空間デザイン学科 (W科)	5/10(土)~11(日)	川上村(奈良県) 〔環境学習・体験学習等〕
建築学科 (A科)	4/12(土)~13(日)	関西空港・大阪府立少年自然の家(大阪府) 〔施設見学等〕
技術マネジメント学科 (B科)	5/16(金)~17(土)	川上村(奈良県) 〔環境学習・講演会等〕
機械工学科 (M科)	5/10(土)	ブリッジコンテスト
生体医工学科 (L科)	4/26(土)~27(日)	ロッジ舞洲(大阪市) 〔グループ活動等〕
電気電子システム工学科 (E科)	5/20(火)	松下電器産業の施設見学等(大阪府内)
電子情報通信工学科 (D科)	5/10(土)	松下電器産業の施設見学等(大阪府内)
応用化学科 (K科)	5/17(土)	ロッジ舞洲(大阪市) 〔ごみ処理舞洲工場見学等〕

Team Regalia

ソーラーカープロジェクト



今年もソーラーカーの季節がやってきた。昨年、初出場で8時間完走を果たした「Dream Cup ソーラーカーレース鈴鹿」に「Team Regalia」が今年も挑戦する。今回は、昨年出場した1号機「Iris type 1」と、新たに製作中の2号機「Iris ZERO TWO」の2台がエントリーしている。

「Iris ZERO TWO」はボディの素材にFRPを使い軽量化を追求した。CADで設計したデータを解析ソフトで強度計算している。車体はまだ完成していないが、8月2日のレース初日には間に合う。目標は2台揃ってトップ10入りと「Team Regalia」代表の森田晃佳君(M4)。

アルミボディの「Iris type 1」もサスペンションやコックピット周辺の配線などを改良。6月30日にレース本番と同じコースで行われた試走会では、ソーラーパネルの発電出力や走行効率などのデータを集めるとともにタイヤ交換などピット作業の練習を繰り返し、本番に向けて着実に準備を進めている。

「Team Regalia」にはフォーミュラカーチームが今年から新設され、ソーラーカーチームと2本立てで活動している。新入生4人が加わり16人になったソーラーカーチームは、フォーミュラカーチームや高大連携を図る「ものづくり人材育成事業」に参加している大阪府立成城高等学校の生徒たちの協力も得て、トップ10入りできる車体の製作を続けている。「Iris」2台の活躍を期待したい。

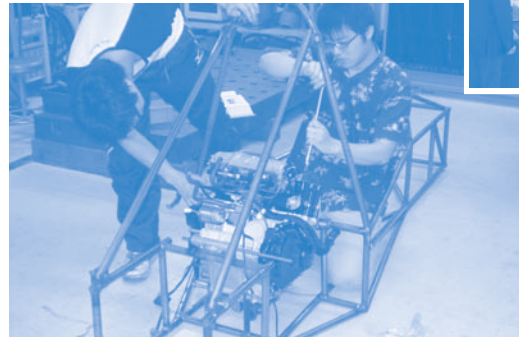


試走会を前に緊張のスタッフ

フォーミュラカープロジェクト ソーラーに続け

昨年、ソーラーカーで話題を博した「Team Regalia」が、2007年10月にフォーミュラカーチームを新たに発足した。フォーミュラカーとは、一般に市販されている車とは異なり車重が非常に軽く、エンジンをはじめとする車両性能も高性能で完全にレース用に作られた車であり、F1が代表例として挙げられる。

「Team Regalia」は現在、9月に静岡県の小笠山総合運動公園で行われる「第6回全日本学生フォーミュラ大会 -ものづくり・デザインコンペティション-」に向けて、着々と準備を進めている。この大会は、加速やコーナリングといった走行性能だけでなく、コストや設計面も審査対象となるため、「Team Regalia」でもサスペンション班・フレーム班・パワートレイン班の3部門に車両製作を細分化し、さらにスズキ株式会社から最新モデルのバイクを譲り受け、そのエンジンを移設することにより、低コストかつ高性能のフォーミュラカー完成を目指している。大会は9月10日から13日まで。ソーラーカーに続く活躍が期待される。



エンジンを移設し、着々と準備中



スズキ株式会社からバイクを引き取り

カウンセラーのひびり言

土を触る

カウンセラー 大谷 真弓

あなたがほっとできるのは、何をしている時でしょうか。私にとってほっとできるのは、土を練ったり土で造形したり、作った器の形を削って整えたりと、ひたすら土に向かっている時間です。土に向かっていると、日頃いろいろと考えたり悩んだり、イライラしていることもすっかり忘れて、知らぬ間に没頭して数時間たっていた、ということも少なくありません。

それでも、あまりにも日常に余裕がない時には、土に向かおうという気にもなれないことがあります。そんなときは自分で自分に警告します。「好きなことにも時間を割けないって、あなたかなり余裕が

なくなってますよ」と。この時期を逃してしまうと、無理した状態～いわゆる過労～になるのかな、と思います。

ストレス解消法の一つに、「自分のリラックスした状態を知っていること」というものがあります。リラックスした状態を知って、できるだけそれに近づける時間を持つというのは、過労の予防になります。忙しい世の中ですので、なかなか理想通りにはいきませんが、自分のほっとできる状態の一つを知っておくことは楽しく生きていくためのコツかもしれませんね。

心理学アウカルト

求むコミュニケーション能力?!

カウンセラー 宮田 麻理子

就職活動中の学生さんによると、今、企業の多くは「コミュニケーション能力」のある人を求めているそうです。確かに、まずは社内、さらには顧客と円滑なコミュニケーションが図られなければ、いくら知識や技術があっても企業利益には結びつきません。しかしそれはむしろ自明のことともいえるのに、あえて求めるということは、現状がよほどそうした能力に欠ける状態にあるからなのでしょう。それにしても「コミュニケーション能力」とはまた基本的ながら、非常に難しい注文だなとも思います。それは一朝一夕に身につくようなものではなく、乳幼児期からの人との交わりのなかで熟成されるように身につけていく質のものだと思います。やや皮肉な言い方を

すれば、利便性や簡便性を追求する商品を大量に社会に送り込んだ結果、暮らしは格段に便利になったが、人と人との生のふれあいの機会を奪い、結果的にコミュニケーション能力を育む土壌が希薄な社会を作る一翼を担うことになってしまった企業自身が今、その能力の欠如に苦勞しているとも言えますね。

しかし、学生の皆さんにとっては就職活動そのものが新たなコミュニケーション能力の開発の大きな機会だと思います。企業の「人」とおおいにコミュニケーションして、能力開発発展途上の今を大いに表現してみてくださいね。

枚方 iLoop が産経新聞に掲載

情報科学部の学生らが立ち上げたプロジェクト「iLoop Task Force」(URL:http://iloop.jp/joomla/index.php)で開発しているシステム掲示板「Oh! IT」が、産経新聞4月25日朝刊に掲載された。

「Oh! IT」は、学内向け情報ナビゲーションシステムで、学生自らが設計・開発し、運用までこなす点が大きな特徴である。本紙で以前紹介したとおり、枚方キャンパスの1号館1・2階エレベータホールに大型ディスプレイとKIOSK端末を設置し、大学の連絡事項のほか、講義やバス発車時刻などの情報がリアルタイムに提供されている。その後、新たに学生自身が情報提供者となることが認められ、「Oh! IT」システム管理者の審査を経た上で、学生による情報発信ができるようになっていく。

産経新聞の記事は学生への取材を中心に構成され、学生らが大規模システムを開発し、運用することの難しさや達成感の獲得の様子がレポートされている。



産経新聞2008年4月25日朝刊 26面より抜粋

異国の地「大阪」に短期留学



中国から同済大学生の2人が5月12日からの1ヵ月間、短期留学生として本学で勉学に励んだ。来学したのは儲曉雲(写真左)さんと夏紆雨(同右)さんで、同大からの受け入れは今回で10回目となる。日本語を専攻している2人は、「経済学」や「日本の文化と歴史」などの授業を日本人学生と一緒に受講しながら、2回の校外研修では大阪について学んだ。見学先の大阪歴史博物館や大阪城、通天閣では大阪の歴史と伝統について見識を深め、世界トップレベルのスピードを誇る新幹線の見学も行った。また日本橋や心齋橋では、世界的に注目を集めている日本の流行ファッションやブランドに触れる機会をもった。

留学中に日本の友人が多くできた2人は「学んだ日本語を日本で実際に使うことができ、自分自身を成長させることができた」(儲さん)、「街中で中国語のアナウンスを聞いて、日中間の交流が深まっていることを実感した」(夏さん)と、今回の短期滞在中で多くの収穫を得たようだ。

タイ、ラオスなどから13人が仲間入り



緊張しながら元気に自己紹介

外国人留学生歓迎会が4月30日、大宮西学舎研修センターで開催され、編入学生、研究生を含め計4カ国13人の新入生を先輩留学生や教職員が盛大な拍手で迎えた。開会にあたり井上学長は「専門知識の修得にとどまらず、幅広い分野の人たちとコミュニケーションを図り、爽り多い留学生活を送ってください」と歓迎のメッセージを述べた。

開宴後は、緊張気味だった新入生の表情も次第にほぐれ、留学生同士や教職員と話が弾み親交を深めた。先輩留学生を代表して葉志堯さん(院P2・台湾)からは留学生活の成功を祈る温かな言葉が贈られた。また、文化会茶道部はお茶のお点前を、体育会合気拳法部は迫力ある演武と留学生を交えた護身術を披露し、歓迎ムードを盛り上げた。

学部・研究科	学科・専攻・学年	氏名	国籍	備考	
■ 新入生 所属・氏名等	工学部	W1	董 文翰(トウ フンカン)	中国	
	工学部	A3	ケオハボン バイバディット	ラオス	編入学生
	工学部	B1	チャーウギウ ジッティマート	タイ	
	工学部	M1	韓 盛圭(ハン ソンギョ)	韓国	
	工学部	L1	テップトーン サラウット	タイ	
	工学部	E3	シボサイ スリヴォン	ラオス	編入学生
	工学部	D1	宣 僑昊(ソン セホ)	韓国	
	工学部	A	鄭 軍植(ジョン グンシク)	韓国	研究生
	情報科学部	IC1	張 子樑(チョウ シトウ)	中国	
	情報科学部	IN1	楊 信(ヨウ セイ)	中国	
	知的財産学部	P1	安 義眞(アン ウジン)	韓国	
	知的財産学部	P1	張 翔(チョウ ショウ)	中国	
	大学院工学研究科	B1	謝 曉峰(シャ ギョウホウ)	中国	

あなたは大丈夫？ 交通ルールとマナーを再確認

学生の交通安全に関する正しい知識習得とマナー向上を図り、交通事故から学生生活を守ることを目的とした、2008年度第1回交通安全講習会が5月30日に大宮キャンパス東中庭で開催された。今回は大阪府警交通機動隊4人と旭警察署交通課2人が講師を務め、学生が実際にバイクを運転して指導を受ける実車教習や、クイズ形式の講習会などが行われ、参加した学生133人の興味を大いにかき立てた。「自己流だったバイクの点検方法を見直すきっかけとなった」「忘れかけていたことを思い出せた」など、参加者から交通安全を再認識したという多くの声が聞かれた。第2回同講習会は11月に実施する予定。



学長表彰(2008年度第1回)

学業や課外活動での優秀な成績に対して、6月26日学長表彰が実施された。

▶ 学長表彰に輝いた学生たち

被表彰者(所属)	表彰対象・内容等	成績等
《学芸賞(個人)》 岡田 真治(院V2)	平成20年度土木学会関西支部 年次学術講演会	優秀発表賞
《課外活動賞(個人)》 体育会 合気拳法部 松村 一矢(E3)	第6回全日本セフティ空手道選手権和歌山大会	男子・一般有級 65kg. 未満の部 優勝
体育会 洋弓部 神内 康介(V3)	第37回全日本フィールドアーチェリー選手権大会	大会出場
体育会 洋弓部 真鍋 慶行(IJ4)	〃	〃
体育会 北道院拳法部 堀川 良基(M4)	第30回全日本北道院オープン選手権大会	段外軽量級 優勝

今年も、 体育会航空部が 「鳥人間コンテスト」に出場します!

体育会
航空部

体育会航空部が読売テレビ主催「鳥人間コンテスト選手権大会」に出場します。

昨年度は、悪天候に見舞われフライト日が延期されるなど厳しい状況の中、見事、滑空機部門フォーミュラクラス第3位(飛行距離98.28m)に輝いており、今年もさらなる飛躍が期待されます。

【大会概要】

今回で32回目を迎える夏の恒例行事。今大会は「滑空機部門」、「人カプロペラ機ディスタンス部門」、「人カプロペラ機タイムトライアル部門」の3部門で実施される。

大会
期間

7/26(土)・27(日)

開催
場所

琵琶湖東岸
(滋賀県彦根市松原水泳場)

【航空部の出場部門・日時】

■ 出場部門 滑空機部門フォーミュラクラス

■ 出場日時 2008年7月26日(土) 8:00~(フライト時刻は未定)



本学では10月31日から11月2日まで大宮キャンパスで「城北祭」、11月3日に枚方キャンパスで「北山祭」を開催する。今回は豪華なゲストや様々なイベント、多くの出店などで彩られる学園祭を企画・運営する両実行委員会にスポットを当ててみる。



城北祭実行委員会 委員長 細野貴裕 (C3)

私たち城北祭実行委員会は、現在8人で活動しています。活動内容は本当に様々で、当日のイベントを企画、運営する「企画部」、企業・店舗へのスポンサーのお願いや他大学の学園祭実行委員会と連絡を取り合う「渉外部」、城北祭で配るパンフレットやポスターを製作する「情編部」などがあります。イベント会社と同じような活動内容です。委員長として日々大変ですが、やりがいのある活動内容だと自信をもって言えます。

城北祭も今年で8回目となり、今まで数々の企画が生まれ行われてきました。今年も新しい企画の1つとして「ミニ四駆大会」を予定しています。学生の皆さんも参加できるような企画にしたいと思っています。

城北祭実行委員会の活動を通して感じることは「創造することへの大切さ」です。実行委員の活動には「何かを考えて、実行する」というチャレンジ精神がとても重要で、それは大学卒業後も活かされると思います。もし、そうしたクリエイティブな活動をしたい方、自分の感性をもっと豊かにしたい方、またはただ単にお祭りが好きな方は、城北祭実行委員会の活動に参加してみませんか?皆様の参加、心からお待ちしています。

一緒に

企画・運営して
みませんか?

連絡先

(城北祭) TEL 06-6953-8770 E-mail shirokita_post@yahoo.co.jp
(北山祭) E-mail kitasai@gmail.com

[HP] http://www3.ocn.ne.jp/~oit-fes/
[HP] http://kitayamasai.gozaru.jp/

第46回大阪工業大学 学長杯争奪学内レガッタ

体育会
漕艇部

体育会漕艇部主催「大阪工業大学学長杯争奪学内レガッタ」が6月28日、淀川・本学北側特設コースで開催された。この大会は毎年、体育会漕艇部が主催し今回で46回目を数える本学の伝統行事。今年も近隣地域の多くの商店主からご支援をいただくとともに、研究室・クラブ・職員がクルーを構成し、18クルー・67人が学長杯を争った。



カだけでなくタイミングも重要

湿度が高く蒸し暑い中、接戦を制し学長杯を勝ち取ったのは「体育会バドミントン部チーム」。力強く、息のあったローイングで見事に学長杯を手にした。

学内レガッタには、4人乗りの艇でレースをすることのほかに、「淀川に親しむ」という目的がある。参加者は、普段身近にありながら、親しむ機会の少ない淀川に触れ、漕艇部の活動と淀川の環境に理解を深めたようであった。

漕艇部は学内レガッタを成功させるとともに、6月14・15日に行われた関西学生新人レガッタで準優勝を収めており、今後さらなる活躍が期待される。



北山祭実行委員会 委員長 新川慶祐 (IM2)



私達北山祭実行委員会は、11月3日に開催される枚方キャンパスの学園祭「北山祭」の企画・運営を行っています。北山祭は、情報科学部の全学生が参加出来る枚方キャンパス最大のイベントです。

北山祭の開催に向けて、毎週の全体会議や企業様の広告集め、フリーマーケット出店者募集のために大学近隣を回る等、様々な活動を行っています。また、先輩からのアドバイスを受けながら、より良い企画を仕上げていきます。北山祭は一日だけですが、半年以上の準備期間を経て一大イベントを完成させます。

毎年多くの来場者を集め盛り上がった北山祭も、今回で12回目を迎えます。今回のステージイベントでは、学外から有志者を招いてライブ・漫才等を行うほか、模擬店の出店場所を見直し、北山祭が一層賑わうことを期待しています。恒例イベントであるフリーマーケットも180店舗が出店する予定です。他にも研究室発表やサークルによるイベント等、いずれも来場者の心を引き付ける企画を用意し、各イベントとも大盛況となる気運が高まっています。

今年度のテーマは「夢の扉」です。どんな人にも夢があると思います。例えば私たち北山祭実行委員会の夢は、皆さんに楽しんでいただける北山祭をつくることで、その夢に向かって努力をしています。そこで皆さんにも自分の夢について考えていただき、夢を追いかける気持ちや夢に向かって努力したことを大切にしてもらいたいと思い、このテーマに決めました。皆さんも北山祭に参加して、夢の扉を開けてみませんか?それではご来場を心よりお待ちしております。

地域社会の発展に貢献 ～商店街に元気を～

文化会
美術部

大宮キャンパスに近い都島区大東町は俳人・与謝蕪村の出身地として有名で、「蕪村通り商店街」がある。本学文化会美術部が同商店街の依頼で、蕪村にまつわる絵を店舗のシャッターに描き、商店街の活性化に貢献している。

依頼主の「のたや呉服店」店主靴谷栄一さんは「商店街を活気付ける方法はないかと悩んでいたが、大工大の学生さんが快く依頼を受けてくださり、商店街のみんなが喜んでます」とお礼の言葉。一方、村瀬健太郎長(D2)は「シャッターに描くのは初めて。下書きからペンキを塗る作業まで技術だけでなく体力も必要でした。難しかったが、やりがいがあり、楽しんで描くことができました」と、大変さと充実感をうかがわせた。

同部はさらに2カ所のシャッターに絵を描くことを依頼されており、夏期休暇などを利用して、絵の完成に励む。



店主の靴谷夫妻(両端)と村瀬部長



コンクリートカヌー大会に出場決定!

文化会
土木文化
研究部

文化会土木文化研究部が8月19日、兵庫県立円山川公苑(豊岡市小島)で行われる「第9回コンクリートカヌー競技大会」に出場する。初出場の2006年は完走したがカヌーが重すぎ、昨年は軽すぎてバランスがとれず浸水し途中棄権。今回は2度の経験から得たものを形にして3度目の挑戦となる。同部部長の細野貴裕君(C3)にこの大会にかかる意気込みを語ってもらった。



▶▶「今回はどんな工夫をしていますか?」

細野君「水と接するカヌーの表面をなめらかにし、推進力をアップさせることです。前回まではコンクリートを削ってなめらかにする工程をしなかったこともあり少し凸凹でした。またカヌーが軽すぎてバランスが悪くならないよう、底面に重みのあるコンクリートを使用するなどして工夫しています。今回はドラゴンのデザインを施し、翼もつけてアイデア面を重視したカヌーにする予定です」

▶▶「派手なカヌーになりそうですね。今までの工程で苦労した点は?」

細野君「コンクリートを1cm幅に保ちながらカヌーを形作ることが難しかったです。コンクリートで薄さを出すことの難しさや管理の仕方を学びました」

▶▶「カヌー作りは楽しい?」

細野君「コンクリートでカヌーを作るなんてことは一見無駄なことに思えるけれど、一人では出来ないことだし、今しか出来ないことです。大学で勉強している内容を活かし、顧問の三方先生や部員と相談しながらアイデアを持ち寄ってみんなで作業するのは楽しいです。今後は製作作業をしながら、カヌーに乗るメンバーには身体を鍛えてもらいます!」

コンクリートカヌーを見たい、興味がある人は10号館1階MONOLAB.まで。8月19日は円山川公苑に土木文化研究部を応援しに行こう。



—写真研究部写真集—

モノクロの魅力伝えたい

文化会写真研究部が4月、写真集「西風」を発行した。年1回発行されるこの「西風」も、今号で第39号となり同部の歴史を感じさせる。

部員一人ひとりの自信作を集めて作られたこの写真集の最大の特徴は、全て「モノクロ」の写真が掲載されていることである。松岡憲之部長(K3)も、「デジタルカメラが主流となっている時代に取ってフィルムカメラで撮影したモノクロ写真を掲載することで、カラー写真とは異なる風合いを感じて欲しい」と語り、この時代に取ってモノクロ写真を掲載することに自信をうかがわせていた。

大宮キャンパス

新入生歓迎フェスティバル



大宮キャンパスでは4月4日・5日、恒例の「新入生歓迎フェスティバル」が開かれた。このイベントは、「新入生にクラブ活動の良さを知ってもらおう」という目的で、文化会本部・体育会本部そして城北祭実行委員会が主催して、入学宣誓式当日とその翌日に行われている。今年も各クラブが、総合体育館前で入学宣誓式を終えた新入生に勧誘のビラを配り、東中庭を中心に設けられたブースでは自分たちのクラブを熱心に紹介。また、ステージでは演武や体操のアクロバットショーが披露され、沸きに沸いた2日間となった。

枚方キャンパス

新入生歓迎「桜春祭」



4月9日から11日まで新入生歓迎イベント「桜春祭」が開催された。このイベントは、クラブ・サークルの紹介および新入生と在校生との交流が目的で、枚方キャンパスにおいて毎年行われている。

今年は開催期間を3日間に拡大。初日は大教室へ新入生を集め、クラブ・サークル紹介を実施。2日目と3日目は、エントランスホールに枚方・大宮の両キャンパスのクラブ・サークルがブースを出し、新入部員の勧誘合戦を繰り広げた。新入生は興味をもったブースを回り、先輩の話に聞き入っていた。また、エントランス近くに特設されたステージでは軽音サークルがライブを行い、新入生の熱い気持ちをさらに燃え上がらせ、例年にない歓迎ムードで満たされた。

日経新聞社との連携講座を開講



熱のごもった講演を行う東レの前田氏

5月23日と7月15日、枚方キャンパスにおいて日本経済新聞社との連携講座が開講された。この講座は、日本経済新聞社の記者や産業界のリーダーによる講演を通して、活字文化の復権を目指し、学生の資質向上を図ることを目的としたもの。5月23日は1年次生を対象に東レ株式会社広報室長の前田

一郎氏、7月15日は2年次生を対象に財団法人日本漢字能力検定協会副理事長・事務局長の大久保浩氏により、400人超の大教室がほぼ満席となった熱気あふれる会場で講演が行われた。

両氏は、マスメディアを利用した企業の広報戦略や、企業社会における活字メディアの重要性などを通じて、読み書きの大切さを訴えた。この連携講座は後期にも大宮・枚方両キャンパスで合わせて8回行われる予定。

ルラージュで多彩なイベント

オープンから4ヵ月が経ち、憩いの場として多くの学生に親しまれているルラージュと淀ビスタ。現在では、音楽系クラブの発表会や芸術系クラブの展示会場など、あらゆる行事に活用されている。7月3日には(株)豊田中央研究所取締役の齋藤昭則氏を



七夕にルラージュで平家琵琶を奏でる

フォーラムが開催された。「自動車を支える技術—これまで、これから—」と題した講演には、学生や来場者も熱心に耳を傾けた。7月7日七夕の日には平家琵琶の上演会が行われ、前田流平家琵琶伝承者である橋本敏江氏の奏でる美しい音色に、しばしば多くの来場者が聴き入った。

今後も講演会などを予定しており、興味のある方は是非参加を。

ルラージュ、淀ビスタを快適な空間として維持する為には、皆さんの協力が不可欠です。マナーを守り、今後も皆さんの憩いの場を大いに活用してください。

後援会総会 ～'08年度事業などを承認～

大阪工業大学後援会の定期総会が6月7日、大宮キャンパスに267人の父母等を迎え、井上学長はじめ大学関係者が出席して開催された。総会では、坂井後援会会長、井上学長の挨拶に続き、2007年度の事業報告や収支決算の審議、2008年度新役員への選出が行われた。また、2008年度の予算案や事業計画、会則等の改正についても審議され、承認された。総会終了後には、石尾情報科学部長による「インターネットと大学教育」と題した講演が行われた。

その後、学部・学科ごとに個別相談室が設けられ、参加者が子女の学業や就職、学生生活に関して、教職員と熱心に懇談し理解を深めた。

お詫びと訂正

「およどNo.209」(3月19日発行)4面 建築学科卒業研究作品展示会の記事に掲載の最優秀論文発表賞受賞者氏名に誤りがありました。受賞の方へ心よりお詫び申し上げますとともに、下記の通り訂正いたします。

(誤) 武田 久美子 → (正) 森田 真由美

地域クリーンキャンペーン参加者募集! ～気持ちいい汗一緒にかきませんか～

大宮キャンパスでは、地域貢献を目的とした大学周辺地域の清掃ボランティア活動「地域クリーンキャンペーン」を2007年4月から実施している。2007年度参加した学生の数は、延べ419人(一般学生90人、クラブ学生329人)と、大宮キャンパスの恒例行事としてすっかり定着した。

参加した教職員・学生らは、1時間ほど大学周辺の吸殻や空き缶等のゴミを拾って歩く。地域住民から「助かるよ、ありがとう」と声を掛けられることもあり、地域住民との輪が広がっている。

また、地域クリーンキャンペーンはアチーブメントシート対象行事でもあり、多くの学生が参加して同シートを集めている。アチーブメントシートが一定枚数以上になれば学長表彰を受けることができ、2007年度第4回学長表彰では、クリーンキャンペーンに積極的に参加してくれた学生が「善行賞」を受けた。是非、たくさんの学生に続いていただきたい。

地域クリーンキャンペーン
参加してアチーブメントシート
を集めよう!

アチーブメントシートとは…

大学行事等に参加・協力して大学・地域等に貢献した学生に発行されるボランティア活動証明書です。 [クリーンキャンペーン参加×4回=アチーブメントシート1枚]

- 1 参加日時を決定
月曜 (16:40～17:40)
水曜 (13:30～14:30)
金曜 (13:30～14:30)
- 2 事前に学生課へ参加日を報告
- 3 当日学生課へ集合し、清掃道具を持ってさあ!清掃スタート
- 4 お疲れ様でした! また、参加しよう

笹の葉さらさら ～キャンパスに夏の風物詩お目見え～

日本に古くから伝わる7月の一大イベント「七夕」。大宮キャンパスではルラージュ(6号館15階)に2mを超える笹が設置された(写真左)。この笹は、摂南大薬学部敷地内にある竹林に生えていたもの。また枚方キャンパスでも1号館1階エントランスに設置され(写真右)、それぞれのキャンパスの学生達が「一緒に飾り付けがしたい」と集まり、盛大に笹を彩った。「雰囲気が変わった」「ロマンチックだ」と好評で、学生達は思い思いの願い事を書いた短冊を笹に飾り付け、7月7日の夜空に光る天の川に想いを馳せた。



■編集・発行を終えて

日に日に夏の気配が感じられ、世間では「北京オリンピック」の話題で持ちきりですが、我が大工大でもオリンピックに負けないくらいの熱い戦いがこの夏繰り広げられます。「鳥人間」「ソーラーカー」そして「コンクリートカー」etc...規模で見ればオリンピックの方が断然勝っていますが、熱さでは負けないと確信しています。

毎号読んでくださる方はお気づきかもしれませんが、今号から紙面のデザインを少し変更しています。「以前よりもすっきりして読みやすくなった」と感じてもらえたらうれしい限りです。これからも皆さんが読みたくするような紙面を作っていきたいと考えていますので、ご意見・ご要望がありましたら学生課までお寄せください。もちろんニュースになるような情報提供もお待ちしております。